

教科名	国語	科目名	現代文B	履修クラス	3年全クラス	
				担当者		
使用教科書		「高等学校現代文B」三省堂			履修単位数	3
副教材等		「三訂版プログレス現代文総演習 発展編」いっずな書店 「プレミアムカラー 国語便覧」数研出版 「評論速読トレーニング 2000」数研出版 「新版 完全征服頻出入試漢字」桐原書店				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<p>評論では、論理的な文章を理解し、現代社会との関係、現代思想の志向について理解するなど、客観的な文章読解力を確立する。</p> <p>また、小説では登場人物の豊かな心情を読み取り、今後の社会生活において人間関係を円滑にできる力を涵養する。</p>	<p>定期試験の得点に加え、ノート・課題の提出状況、小テスト、授業への参加態度等を勘案して、総合的に評価する。</p>

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 18	評論 「ぬくみ」	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読み、その構成・展開などを的確に読み取る。 ・哲学や言語・記号論についての文章を読み、思索を深める。
5		小説 「檸檬」	
6	期末 考査 まで 21	評論 「身体の疎外」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の問題提起を理解し、現代社会の問題点について考察を深める。 ・身体論について学習する。
7		「虚ろなまなざし」	
9	中間 考査 まで 21	小説 「舞姫」	<ul style="list-style-type: none"> ・雅文体の文章を読み味わう。 ・主人公の生き方を通して、日本近代の問題を理解する。 ・森鷗外の文学について知る。
10			
11	期末 考査 まで 21	評論 「無常ということ」	<ul style="list-style-type: none"> ・無常について考えを深め、人生について考えを深める。
12		小説 「涙の贈り物」	
1	3学年 特別 講習 期間	問題演習 各自の進路のテーマと課題による学習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>社会生活において、国語の言語能力は必要不可欠です。自らの気持ちや考えを的確なことばで表現し、他者の気持ちや考えを的確に理解することは、卒業後のあらゆる場面で必ず生きる力となります。作品と向き合い、深く考え、自分の意見を積極的に表現してください。</p> <p>また、漢字や語句の意味など、基本的な知識も確実に身につけるために、繰り返し学習しましょう。</p>

教科名	国語	科目名	古典 B	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書	高等学校改訂版古典 B 古文編 第一学習社			履修単位数	3	
副教材等	「プレミアムカラー」(数研出版)「八訂版体系古典文法」「改訂版体系古典文法学習ノート」(数研出版)「つながる・まとまる古文単語 550PLUS」(いっずな書店)「新明説漢文シリーズ基本練習ノート」(尚文出版)「四訂版力をつける古文ステップ 2」(数研出版)					

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
2年次に学習した文法と古典の知識を応用し、古典作品を読み解く力を涵養する。 大学進学に対応する古典問題の解答力をつけるだけでなく、進学後の学業に資する教養を養う。	定期試験の得点に加え、課題の提出状況、授業への参加態度等を勘案して、総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 18	説話	『発心集』『十訓抄』 ・基礎的な古文を確実に読解し、より長文で難解な大学入試問題に意欲的に取り組ませる。 ・古文読解のルール等、解答法の基礎を学習する。
5			
6	期末 考査 まで 21	随筆・日記	『枕草子』『蜻蛉日記』 ・識別など、基礎的な文法事項から確認・復習し、大学入試問題の基礎力を定着させる。 ・上代と中古の文学史の大学入試頻出事項を整理する。
7			
9	中間 考査 まで 21	物語	『源氏物語』他 ・敬語の学習を確実にし、大学入試問題に対応出来る実力を養成する。 ・『源氏物語』を中心とする平安時代前後の文学史の流れを理解する。 ・作品の世界観を理解し、物語の登場人物の関係・心理を文法的な知識を用いて、読解する。
10			
11	期末 考査 まで 21	評論 歴史物語	『俊頼髓脳』『大鏡』他 ・大学入試頻出の和歌に関する事項を整理すると共に、大学過去問題の演習を行う。 ・センター試験の過去問題の演習を通して、時間配分を意識した解答法を学習する。
12			
1	3学年 特別 講習 期間	問題演習 各自の課題による学習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
本文を写し、辞書などを用いて単語の意味を調べ、自分の力で本文の現代語訳を必ずして授業に臨んでください。継続して取り組み、古典の力を伸ばしてください。 受動的な学習態度を脱して自ら学ぶ姿勢を確かなものにし、継続的な学習の中で、学力を育てる態度を維持できるようにしよう。

教科 名	英語	科 目 名	English Expression II	履修クラス	3年全クラス
				担 当 者	
使用教科書		Vision Quest English Expression II (啓林館)		履修単位数	2
副教材等		UPGRADE 英文法・語法問題 (数研出版) UPGRADE 英文法・語法問題 完全演習 標準編 (数研出版)			

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
英語の基礎・基本的な力の定着を図り、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。その土台としての文法事項についても、2段階のレベルの教材を使用し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	定期テスト、小テスト、提出物を総合的に判断し、評価する。詳細については、初回の授業で、担当者より説明する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考查 まで 12	UPGRADE 英文法・語法問題 1～9	時制、助動詞、仮定法、態、不定詞、動名詞、不定詞 VS 動名詞、分詞、前置詞
5		UPGRADE 完全演習 標準編 1～7	時制、助動詞、仮定法、態、不定詞、動名詞、不定詞 VS 動名詞、分詞
6	期末 考查 まで 14	UPGRADE 英文法・語法問題 10～20	接続詞、関係詞、疑問文、比較、否定、倒置・省略・代用・強調、主語と動詞の呼応、動詞の語法
7		UPGRADE 完全演習 標準編 8～14	前置詞、関係詞、疑問文、比較、否定、倒置・省略・代用・強調、主語と動詞の呼応
9	中間 考查 まで 14	UPGRADE 英文法・語法問題 21～29	名詞の語法、代名詞の語法、数量表現、形容詞の語法、副詞の語法、多義語、分をつなぐ語句、重要語彙の整理、基本動詞の熟語
10		UPGRADE 完全演習 標準編 15～21	動詞の語法、名詞の語法、代名詞の語法、数量表現、形容詞の語法、副詞の語法
11	期末 考查 まで 14	UPGRADE 英文法・語法問題 29～34	前置詞でつかむ熟語、副詞でつかむ熟語、重要熟語の整理、会話、発音・アクセント
12		UPGRADE 完全演習 標準編 22～27	多義語、分をつなぐ語句、重要語彙の整理、基本動詞の熟語、前置詞でつかむ熟語、副詞でつかむ熟語、重要熟語の整理、会話

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
UPGRADE の参考書と問題集を組み合わせ、効率的に学習していきます。参考書は自学自習し、小テストで定着を図ります。問題集は授業で使用し、演習形式で解説します。1～2年生で培った基礎を元にして、実際の入試問題にチャレンジします。問題を見たら、どの文法項目が問われているかがすぐに分かるくらいに、何度も解きましょう。文法は、数学で言えば公式ですので、反復練習が修得の鍵になります。できなかった問題はそのままにせず、間違えた原因や、正解に行きつくまでの道のりを探し、解き直しを繰り返すことでゆるぎない実力を身につけましょう！

教科名	英語	科目名	English Communication III(S)	履修クラス	3年全クラス
				担当者	
使用教科書	LANDMARK Fit English Communication III (啓林館)			履修単位数	4
副教材等	LANDMARK Fit English Communication III 予習ノート・Workbook (啓林館) 大学入学共通テストリスニング分野別 10min (エミル出版)、大学入学共通テスト読解トレーニング (エミル出版)、大学入学共通テスト Reach40 (美誠社)、大学入学共通テスト Reach30 (美誠社)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
Reading・Speaking・Listening・Writing の 4 技能をバランスよく学び、大学入試問題に対応できる英語力を育成する。各活動の中で必要な情報を目的に応じて捉え、話の展開や話し手の意図を把握し、論理的に自分の考えを表現できるようにする。	定期テストの他、長期休業明けの学力診断テスト、随時行う小テスト、提出物等を総合的に判断し、評価する。詳細については、初回の授業で担当者より説明する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 24	Lesson 1 Lesson 2	Emperor Penguin Caffeine
5		リスニング分野別 読解トレーニング	Part I 第 1 回～第 9 回 Part II 第 1 部 第 10 回～第 12 回 Level 1 Training1～Training10 Level 2 Training11～12
6	期末 考査 まで 28	Lesson 3 Lesson 4	Blood Is Blood Biomimetics
7		リスニング分野別 読解トレーニング	Part II 第 1 部 第 13 回～第 19 回 第 2 部 第 20 回～第 26 回 Level 2 Training13～20
9	中間 考査 まで 28	Lesson 5 Lesson 6	Communication without Words Christmas Truce
10		Reach30 Reach40	第 1 回～第 3 回 第 1 回 A～第 3 回 B
11	期末 考査 まで 28	Lesson 7 Lesson 8	Political Correctness Global Water Crisis
12		Reach30 Reach40	第 4 回～第 6 回 第 4 回 A～第 6 回 B

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>いよいよ 3 年間の総仕上げです。教科書については前年に比べてさらに分量が増え、進むペースが速くなり、復習する量が増えます。真剣に授業に臨み、自分の弱点を認識し、音読をしながら復習し、単語・文法・構文を吸収して下さい。大学入学共通テストの読解対策では、問題演習を通じてとにかく早く正確に英文を読んでいく力を養います。長文を英語の流れにそってスピーディに理解していく力が求められますので、英語を英語のまま理解することに慣れていきましょう。</p> <p>III S の授業では共通テストのリスニング演習を行います。解き方のコツを授業で確認したら、自宅でもどんどん進めていきましょう。受験生の皆さんにはより一層、自律した学習者としての姿勢が求められます。受け身の姿勢は改め、自ら学び、知識を吸収し、充実した一年を過ごしましょう！</p>

教科名	公民	科目名	現代社会	履修クラス	3年全クラス	
				担当者		
使用教科書	実教出版「高校 現代社会 新訂版」			履修単位数	2	
副教材等						

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
公民的な見方・考え方を身に付けるとともに、現代の政治・経済の諸課題を考察できる力を養う。	①定期考査 ②課題提出 ③授業中の取り組み などを総合的に評価する

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 1 2	民主政治の基本原則 日本国憲法の基本的性格	<ul style="list-style-type: none"> 政治と法 民主政治の原理と発展 現代の政治体制 日本国憲法の成立 平和主義などを中心に時事問題から考察する
5			
6	期末考査まで 1 4	日本の政治機構	<ul style="list-style-type: none"> 立法 行政 司法 地方自治 選挙制度などを中心に時事問題から考察する
7			
9	中間考査まで 1 4	経済社会の変容	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動の意義 経済社会の変容 グローバル化と現代資本主義経済などを中心に時事問題から考察する
10			
11	期末考査まで 1 4	現代経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 市場機構 現代の企業 国民所得と経済成長 金融のしくみ 財政のしくみなどを中心に時事問題から考察する
12			
1	3学年 特別講習 期間		
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>① 本来4単位の科目で範囲が広いため、主に時事問題から、政治と経済項目を中心に考察します。</p> <p>② 板書事項だけではなく、授業のポイントや補足事項を調べるなど、自分自身が理解しやすいノート作りを心がけて下さい。</p> <p>③ 視野を広げるため、日々ニュースに接し、社会へのアンテナを高くもって下さい。</p>

教科 名	地理歴史	科 目 名	世界史演習	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		詳説世界史 B (山川出版社)			履修単位数	2
副教材等		グ「最新世界史図説 タペストリー」帝国書院				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
① 世界史について深い理解と知識を得る。 ② 大学受験に対応できる学力を身につける。 ③ 自ら学ぶ方法や力を身につける。	定期考査や小テストの得点を主体に、予習・復習に 対する取り組み、テキスト及び授業ノートの提出状 況、授業に取り組む姿勢などを加味して総合的に評 価する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	近代ヨーロ ッパ世界の 成立と 主権国家体 制の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンスと宗教改革 ・ 主権国家体制の形成 ・ 重商主義と啓蒙専制主義
5			<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18世紀のヨーロッパ文化 * 概説講義と問題演習を行う
6	期 末 考 査 ま で 1 4	欧米近代国 民国家の発 展 アジア諸地 域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン ・ウィーン体制の成立と崩壊
7			<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界の再編 ・19世紀欧米の文化 * 概説講義と問題演習を行う
9	中 間 考 査 ま で 1 4	帝国主義と アジアの民 族運動	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア、西アジア、東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 ・帝国主義と世界分割そして列強対立
10			<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸国の改革と民族運動 * 概説講義と問題演習を行う
11	期 末 考 査 ま で 1 4	二つの世界 大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国とアジア・アフリカ諸国の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略
12			<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦 * 概説講義と問題演習を行う
1	3 学年 特 別 講 習 期 間		
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
世界史で大学入試等を受験することを前提として授業を行う。授業を集中して受け、必ず、毎回の予習・復習をすること。その際、教科書、資料集、問題集その他を十分に活用すること。授業の中で受験勉強の仕方等についてもアドバイスをを行う。1・2年次に既習の範囲が中心となるので、授業進度は早くなる。少しでも不明な点は質問し、未消化の範囲を作らないようにしてほしい。

教科名	保健体育	科目名	体育	履修クラス	3年男子全クラス
使用教科書	なし			履修単位数	3
副教材等	「ステップアップ高校スポーツ」 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> 各種運動技能や知識の習得 自主的精神に満ちた、心身ともに健康な体力づくり 生涯体育の実践者の育成 	<p>①準備・片付けを含め、いかに積極的・自主的に取り組んでいるか②技能の習熟度③出欠席、以上の3点を踏まえ総合的に評価する。なお、届け出のある欠席でも、欠時数が標準授業時数の1/5を越えた場合には、原則として単位の修得は認めない。</p>

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 18	新体力テスト	<p>握力、上体起こし、体前屈、反復横とび、持久走、50M走、立ち幅跳び、ボール投げ 2クラス3展開または3クラス4展開で実施。生徒の希望で種目選択をする。 授業については、各種目とも生徒同士で内容を検討・決定する。なお、授業を実施事前準備として、活動計画を立案・提出させ、その計画に対しての指導を行う。そして立案した計画に沿って授業を展開させ、授業終了後その授業の反省を行い、次の授業に活かせるようにする。</p> <p>テニス：フォアハンド・バックハンドストローク、サーブ等からゲームの実施 卓球：フォアハンド・バックハンド、スマッシュ、サーブ等からゲームの実施 ソフトボール：キャッチボール、バッティング、ノック等からゲームの実施</p>
5		卓球	
6		ソフトボール	
7	期末 考査 まで 21		
9	中間 考査 まで 21	バドミントン	<p>2クラス3展開または3クラス4展開で実施。生徒の希望で種目選択をする。 授業については、各種目とも生徒同士で内容を検討・決定する。なお、授業を実施事前準備として、活動計画を立案・提出させ、その計画に対しての指導を行う。そして立案した計画に沿って授業を展開させ、授業終了後その授業の反省を行い、次の授業に活かせるようにする。</p> <p>バドミントン：ハイクリアー、ドロップ、スマッシュ、サーブ等からゲームの実施 サッカー：パス、ドリブル、シュート等からゲームの実施 バスケットボール：パス、シュート等からゲームの実施 バレーボール：パス、レシーブ、サーブ等からゲームの実施</p>
10		サッカー	
11		バスケットボール	
12	期末 考査 まで 21	バレーボール	
1	3学年 特別 講習 期間	各自の進路に応じた課題学習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)					
<ul style="list-style-type: none"> 活動に際しては、互いを尊重し合う気持ちを持つとともに、ルール・マナーの尊重はもちろんの健康状態に留意し、怪我など発生しないよう注意する。 体育着については、学校指定のものはないので、一般的に運動着として適した伸縮性のあるものを着用する。装身具は一切身に付けない。 長期見学の場合は診断書等の書類を提出した上で、見学ノートを作成し毎時提出する。 					
教	保健体育	科	体育	履修クラス	3年女子全クラス

科名		目名		担当者	
使用教科書	なし			履修単位数	3
副教材等	「ステップアップ高校スポーツ」 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> 各種運動技能や知識の習得 自主的精神に満ちた、心身ともに健康な体力づくり 生涯体育の実践者の育成 	①準備・片付けを含め、いかに積極的・自主的に取り組んでいるか②技能の習熟度③出欠席、以上の3点を踏まえ総合的に評価する。なお、届け出のある欠席でも、欠時数が標準授業時数の1/5を越えた場合には、原則として単位の修得は認めない。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 18	新体力テスト テニス 卓球 ソフトボール	<p>握力、上体起こし、体前屈、反復横とび、持久走、50M走、立ち幅跳び、ボール投げ2クラス3展開または3クラス4展開で実施。生徒の希望で種目選択をする。</p> <p>授業については、各種目とも生徒同士で内容を検討・決定する。なお、授業を実施事前準備として、活動計画を立案・提出させ、その計画に対しての指導を行う。そして立案した計画に沿って授業を展開させ、授業終了後その授業の反省を行い、次の授業に活かせるようにする。</p> <p>テニス：フォアハンド・バックハンドストローク、サーブ等からゲームの実施 卓球：フォアハンド・バックハンド、スマッシュ、サーブ等からゲームの実施 ソフトボール：キャッチボール、バッティング、ノック等からゲームの実施</p>
5			
6			
7	期末 考査 まで 21		
9	中間 考査 まで 21	バドミントン サッカー バスケットボール バレーボール	<p>2クラス3展開または3クラス4展開で実施。生徒の希望で種目選択をする。</p> <p>授業については、各種目とも生徒同士で内容を検討・決定する。なお、授業を実施事前準備として、活動計画を立案・提出させ、その計画に対しての指導を行う。そして立案した計画に沿って授業を展開させ、授業終了後その授業の反省を行い、次の授業に活かせるようにする。</p> <p>バドミントン：ハイクリアー、ドロップ、スマッシュ、サーブ等からゲームの実施 サッカー：パス、ドリブル、シュート等からゲームの実施 バスケットボール：パス、シュート等からゲームの実施 バレーボール：パス、レシーブ、サーブ等からゲームの実施</p>
10			
11			
12	期末 考査 まで 21		
1	3学年 特別 講習 期間	各自の進路に応じた課題学習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> 活動に際しては、互いを尊重し合う気持ちを持つとともに、ルール・マナーの尊重はもちろんのこと健康状態に留意し、怪我など発生しないよう注意する。 体育着については、学校指定のものはないので、一般的に運動着として適した伸縮性のあるものを着用する。装身具は一切身に付けない。 長期見学の場合は診断書等の書類を提出した上で、見学ノートを作成し毎時提出する。

教	数学	科	数学 I	履修クラス	3年必履修選択
---	----	---	------	-------	---------

科名		目名		担当者	
使用教科書	高等学校 数学 I (数研出版)			履修単位数	3
副教材等	改訂版 リンク数学演習 I・A 受験編 a+b+c (数研出版) 2022 年入試ベストセレクションセンター試験数学重要問題集 (実教出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の希望進路に応じて、看護医療系入試からセンター試験・大学入試問題までに対応できる基礎能力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 例題や問題ができただけでなく、数学に対して想像力を発揮し、独創的な考え方取り組むものを高く評価する ● 定期テストはもちろん、出席状況や平常の学習態度、宿題の提出や小テストなども評価の対象である。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 1 2	数と式	<ul style="list-style-type: none"> ● 式の展開、因数分解、根号を含む式の計算 ● 1次不等式、絶対値を含む方程式・不等式、命題と条件 ● 2次関数のグラフ、平行移動、最大・最小、決定 ● 2次方程式、2次不等式 ● 三角比、相互関係、方程式、正弦定理・余弦定理、面積
5		集合と命題 2次関数 図形と計量	
6	期末 考査 まで 1 5	データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 四分位数、分散、標準偏差、データの相関 ● 集合の要素の個数、順列、組合せ、いろいろな確率 ● 三角形の五心、チェバ・メネラウスの定理、円に内接する四角形 ● 素因数分解、最大公約数・最小公倍数、ユークリッドの互除法 ● 1次不定方程式、n進法
7		場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	
9	中間 考査 まで 1 6	数と式、集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> ● 因数分解、2重根号、絶対値を含む不等式、命題の証明 ● 2次関数の最大・最小、2次方程式、2次不等式 ● 三角比の相互関係、正弦定理・余弦定理の応用、円に内接する四角形 ● 箱ひげ図、データの相関 ● 順列、組合せ、確率 ● 2つの円、正多面体 ● 整数の割り算と余り、最大公約数、1次不定方程式
10		2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	
11	期末 考査 まで 1 6	入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学入試センター試験対策問題演習 ● 大学個別入試対策問題演習
12			
1	3 学年 特 別 講 習 期間	入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護医療対策問題演習 ● 大学入試センター試験対策問題演習 ● 大学個別入試対策問題演習
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ● 公式のたんなる当てはめではなく、基礎概念を根本から理解する。 ● 始から答えに頼らず、まずは自分で考える習慣を身に付け、根気強く丁寧に取り組む。家庭学習：数学は毎日1時間勉強する。具体的には、青チャート式 I・A 等を1学期中に一周する。全問が望ましいが、基礎問題のみ、重要問題のみ等でもかまわない。まずは一周することが重要。夏休み中に同様に二周目をこなす。そうすれば9月以降、入試問題演習に手応えを感じながら臨めるだろう。

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)			履修単位数	3	
副教材等	リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 受験編 a+b+c (数研出版) 2022年入試ベストセレクションセンター試験数学重要問題集 (実教出版)					

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の希望進路に応じて、大学入試問題までに対応できる十分な基礎力・応用力を身につけさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前半は a+b で基礎力をつける ・c の右ページを自力で解決できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 例題や問題の解答を理解できるだけでなく自力で完全な解答を記述できるか、また基礎を踏まえて応用的な問題を分析できるかどうか。 ● 定期テストはもちろん、出席状況や平常の学習態度宿題の提出や小テストなども評価の対象である。

年間授業計画			
月	予定時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 15	(a) レベル 総復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書レベルの既習内容の確認 ● 数学Ⅱ「式と証明」から数学B「ベクトル」「数列」まで
5			
6	期末 考査 まで 21	(b) レベル 総復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書応用レベルから入試基本レベルまでの演習 ● (a)レベルの弱点分野の基本事項を重点的に実施
7			
9	中間 考査 まで 21	(c) レベル 演習 複素数 図形と方程式 三角・指数・ 対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ● 等式・不等式の証明 ● 剰余の定理・因数定理、方程式の解法 ● 軌跡、各関数とグラフ ●
10			
11	期末 考査 まで 21	微分法積分法 ベクトル 数列	<ul style="list-style-type: none"> ● 関数の最大・最小、接線の方程式、方程式・不等式への応用 ● 定積分で表された関数、面積 ● 平面図形とベクトル ● 空間におけるベクトル ● いろいろな数列 ● 漸化式
12			
1	3 学年 特 別 講 習 期 間	入試問題演習 ● 大学入試センター試験対策問題演習 ● 大学個別入試対策問題演習 (d)レベル問題までの類題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ● 公式の単なる当てはめではなく、問題文を正しく読み、関係をつかめることに重点を置く。 ● 例題・問題演習では、必ず自力で、他者を意識した記述ができるように根気強く繰り返す。 ● 家庭学習で数学は毎日1時間以上勉強する。「計画を立てて」必ず「実行」する。実施内容は例えば教科書傍用問題集を1学期中に一周する。重要・A問題は5月中を目途に、その後B問題も夏休み中にもう一度繰り返す。9月以降に章末問題も含めて苦手な分野を中心に再再度実施する。模試などの復習も適宜行う。それ以後は入試問題演習に手応えを感じながら臨めるだろう。 ● 授業に意欲を持って集中するとともに、復習を大切にし、苦手なポイントを乗り越える。

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)			履修単位数	6
副教材等		改訂版 4プロセス数学Ⅲ 新課程用 (数研出版) 2021年入試ベストセレクション大学入試共通テスト数学重要問題集 (実教出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ● 高度な内容に取り組むだけでなく、演習にも重点を置き、数学的素養を磨く ● 数学的合理性を追求すること ● 既習の内容の多方面からの考察を実感させることに数学的思考を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定式に沿って、単純に発想するのではなく、自由な発想で問題解決に取り組む者を高く評価する。 ● 出席状況、平常の学習態度を考慮して、個々の能力を適正に評価する。 ● 個々の問題にとらわれず、問題を通して基礎概念を深く理解しているかを観る。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 3 6	複素数平面 式と曲線	<ul style="list-style-type: none"> ● 複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理 ● 平面図形と複素数 ● 放物線、楕円、双曲線 ● 2次曲線と直線の共有点、2次曲線の平行移動、2次曲線と離心率 ● 曲線の媒介変数表示、極座標と極方程式、いろいろな曲線
5			<ul style="list-style-type: none"> ● 分数関数、無理関数、合成関数、逆関数 ● 無限数列と極限、無限等比数列 ● 無限級数、無限等比級数 ● 関数の極限、三角関数の極限 ● 関数の連続性、連続関数の性質
6	期 末 考 査 ま で 4 2	数列の極限 関数の極限	<ul style="list-style-type: none"> ● 微分可能と連続、微分と導関数、合成関数と逆関数の微分法 ● 三角関数の導関数、対数関数・指数関数の導関数、高次導関数 ● 接線の方程式、平均値の定理 ● 関数の増減(分数、無理、三角、対数・指数関数) ● グラフの凹凸、第2次導関数と極大・極小 ● 速度と加速度、関数の近似値、ロピタルの定理
7			<ul style="list-style-type: none"> ● 不定積分、置換積分法と部分積分法 ● 定積分、定積分と微分、区分求積法と定積分 ● 面積、極座標と面積、アステロイド ● 体積、回転体の体積、球の表面積 ● 曲線の長さ、微分方程式、オイラーの公式
9	中 間 考 査 ま で 4 2	微分法	
10			
11	期 末 考 査 ま で 4 2	積分法	
12			
1			
2	3学年 特別 講習 期間	入試問題演習 ● 大学個別入試対策問題演習	
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ● 公式の単なる当てはめではなく、基礎概念を根本から理解することで応用力を磨く。 ● 例題・問題演習などはすぐに答えを見たりせず、根気強く丁寧にやることで思考力をつける。 ● 家庭学習：数学は復習を中心に毎日1時間勉強する。具体的には、授業の宿題と4プロセスの問題を毎回の授業のあとにやる。定期考査前には4プロセスの応用・演習問題に取り組み、既習事項の確認と問題練習を行う。また受験を目指すものは参考書(チャート式)の購入が望ましい。

教科名	英語	科目名	英語特講	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		なし			履修単位数	3
副教材等		transfer 英語総合問題演習コース C、D(桐原書店)、				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
速読と精読を組み合わせ、読む力を高めるための読解演習を行う。また検定試験の傾向を踏まえ、多様な形式の演習で表現力を鍛える。さらにディクテーションと、実践問題で確実に聞き取る力を要請する。	定期テスト・小テスト・提出物等を総合的に判断し、評価する。詳細については、初回の授業で、担当者より説明する。また、実際の大学入試問題等の応用問題も出題する予定である。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 24	Transfer C UNIT 1~7	動詞の時制 (エッセイ/文学)、完了 (説明文+グラフ、表/社会)、助動詞 (エッセイ/教育)、受動態 (ホームページ/社会)、不定詞・動名詞① (エッセイ/歴史)、不定詞・動名詞② (ニュースサイト/科学技術)、分詞 (エッセイ/動物)
5			
6	期末 考査 まで 28	Transfer C UNIT 8~15	関係詞① (広告/宇宙)、関係詞② (論説文/科学)、比較① (エッセイ/食文化)、比較② (エッセイ+コメント/環境)、仮定法 (エッセイ/自然)、話法・同格 (エッセイ+表/統計)、名詞構文・無生物主語 (論説文/文化)、代名詞・否定 (エッセイ)
7			
9	中間 考査 まで 28	Transfer D UNIT 1~7	時制① (説明文/文化)、時制② (エッセイ/教育)、助動詞・態 (説明文/健康・医療)、準動詞① (説明文/文化)、準動詞② (説明文/食文化)、関係詞 (説明文+グラフ/環境)、比較 (説明文/言語)
10			
11	期末 考査 まで 28	Transfer D UNIT 8~15	仮定法 (説明文/環境)、否定表現 (伝記/ビジネス)、疑問文・語順 (伝記/スポーツ)、動詞の語法① (ホームページ/エッセイ)、動詞の語法② (説明文/科学)、名詞・代名詞の語法 (ホームページ/料理レシピ)、形容詞・副詞の語法 (論説文+グラフ/社会)、前置詞・接続詞 (論説文+表/文化)
12			
1		大学入試問題を解き、解説する	

<p>担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)</p> <p><u>辞書を必ず授業に持参すること</u>。大学受験で英語を入試科目として用いたり、検定資格を取りたい人のための講座である。各 UNIT が読解問題、文法問題、語彙問題、スピーキング・ライティング問題、リスニング問題で構成されており、英語学習を基礎から初めて、無理なく少しずつ力を付けていくことを目的とした総合問題集である。付属の CD や学習アプリを用いて、長文やリスニングの音声繰り返し聴き、そのスピードで内容を理解できるようになってほしい。</p>

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		詳説世界史B (山川出版社)			履修単位数	4
副教材等		「最新世界史図説 タペストリー」 帝国書院				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
④ 世界史について深い理解と知識を得る。 ⑤ 大学受験に対応できる学力を身につける。 ⑥ 自ら学ぶ方法や力を身につける。	定期考査や小テストの得点を主体に、予習・復習に対する取り組み、テキスト及び授業ノートの提出状況、授業に取り組む姿勢などを加味して総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 24	オリエンと地中海 東アジア・内陸アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> 先史の世界 オリエンと地中海世界 古代インド・イラン世界 東アジア世界と内陸アジア世界の形成 * 講義を中心とする授業と問題演習を行う
5			
6	期末考査まで 28	中世ヨーロッパ世界 イスラーム世界	<ul style="list-style-type: none"> 東西ヨーロッパ世界の成立 西ヨーロッパ中世世界の変容 ヨーロッパ中世文化 イスラーム世界の形成と発展、イスラーム文化 * 講義を中心とする授業と問題演習を行う
7			
9	中間考査まで 28	アジア諸地域の繁栄 冷戦と第三世界 現代の世界	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア・東南アジア世界の動向 清代の中国と隣接諸地域 東西冷戦の始まりと激化、アジア諸地域の自立 第三世界の自立と危機、米ソの動揺と国際経済の危機 * 講義を中心とする授業と問題演習を行う
10			
11	期末考査まで 28	テーマ史及び総合演習	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア史 ・朝鮮史 草原地帯のトルコ化とイスラーム化 ・陸と海のネットワーク パレスチナ史、中東情勢 世紀別の世界 * 問題演習と解説を中心に行う
12			
1	3学年特別講習期間		
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>世界史で大学入試等を受験することを前提として授業を行う。授業を集中して受け、必ず、毎回の予習・復習をすること。その際、教科書、資料集、問題集その他を十分に活用すること。授業の中で受験勉強の仕方等についてもアドバイスを行う。受験に関係なく興味があるからという理由で受講した生徒、途中で世界史受験をしなくなった生徒も、この講座を受講する以上、予習・復習を含めやるべきことはきちんと行い、未消化の範囲を作らないようにしてほしい。</p>

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者	小林・井石	
使用教科書		『詳説日本史』(山川出版社)			履修単位数	4
副教材等		『最新日本史図表集』(第一学習社)、『詳説 日本史ノート』(山川出版社)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
① 日本歴史の展開について、世界史的視野から総合的に考察する。 ② 私立大学入試及び大学入学共通テストに対応できる学力を身につける。	以下の4観点を重視した評価を行う。 ①関心・意欲・態度、②思考・判断、 ③資料活用の技能・表現、④知識・理解

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考查 まで 24	原始・古代	第1章 日本文化のあけぼの (旧石器時代～古墳時代)
5			第2章 律令国家の形成 (飛鳥時代) 第3章 貴族政治と国風文化 (奈良時代～平安時代)
6	期末 考查 まで 28	中世・近世	第4章 中世社会の成立 (鎌倉時代)
7			第5章 武家社会の成長 (南北朝時代～室町時代) 第6章 幕藩体制の確立 (江戸時代前期) 第7章 幕藩体制の展開 (江戸時代中期) 第8章 幕藩体制の動揺 (江戸時代後期)
9	中間 考查 まで 28	近現代①	第9章 近代国家の成立 (幕末～明治)
10			第10章 近代日本とアジア (大正～昭和戦前期)
11	期末 考查 まで 28	近現代②	第11章 占領下の日本 (1945～52年)
12			第12章 高度成長の時代 (1950年代～70年代) 第13章 激動する世界と日本 (1970年代以降)
1	3学年 特別 講習 期間	入試対策 主に大学入試の過去問を利用し、問題演習を実施する。	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
① 大学受験に対応できる学力を身につけることを最大の目標とする。 ② 週4時間の授業である。テストはかなりの分量になるので、日々の学習を怠らないこと。 ③ 受け身ではなく、主体的・能動的に授業に参加し、質問も積極的にすること。

教科名	理科	科目名	化学	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		「高等学校 改訂 化学」第一学習社			履修単位数	4
副教材等		「セミナー 化学基礎+化学」東京書籍 「大学入試センター試験対策 チェック&演習 化学」数研出版 「フォトサイエンス化学図録 改訂版」数研出版				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
科学的な事象・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査 まで24	有機化合物	芳香族化合物 有機化合物と人間生活 高分子化合物
5			
6	期末考査 まで28	無機化合物	非金属元素・金属元素 無機化合物と人間生活
7			
9	中間考査 まで28	問題演習	物質の構成 物質と化学結合 物質の変化と平衡 物質の変化
10			
11	期末考査 まで28	問題演習	無機化合物 有機化合物 総合問題演習
12			
1	3学年特別 講習期間	総合問題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
大学入試に向けて、既習事項の復習と問題演習を中心に行う。事前に指定した問題を自宅で予習してることが受講の必須条件である。また、今までの授業で扱うことができなかった実験も取り入れる予定である。

教科名	理科	科目名	生物	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		「B i o L o g y生物」東京書籍			履修単位数	4
副教材等		「セミナー生物基礎+生物」第一学習社 「スクエア生物図説」第一学習社				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
生物や生命現象に関する関心・探求心を高め、生物学的な探究能力を身につけさせる。生物の構造や種の維持などに見られる共通の法則性や多様性を学ぶ。実験を行う際にはレポートを課すことにより考察力を伸ばすようにする。	様々な現象や法則性・多様性について理解できているか否か、定期考査や問題演習、実験レポートなどにより評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 24	生命現象と物質	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を構成する生体物質であるタンパク質を中心に生命現象との関連を理解させる。関連して、代謝とエネルギーについても理解させる。 遺伝子の発現調節を大腸菌の遺伝子組み換え実験を例に取り上げ、理解させる。
5			
6	期末考査まで 28	遺伝子の働き 生殖と発生	<ul style="list-style-type: none"> バイオテクノロジーについて詳しく触れる。 生物の生殖と配偶子の形成および動物の発生のしくみについて実験・観察を中心に理解させる。
7			
9	中間考査まで 28	生物の環境 応答 生態と環境	<ul style="list-style-type: none"> 動物の刺激の受容と反応および動物の行動については問題演習を通じて理解を深めさせる。 生態系の学習については図版や写真等を活用し、地球環境の保全の観点からも理解を深めさせる。
10			
11	期末考査まで 28	生物の進化と系統	<ul style="list-style-type: none"> 進化のしくみと生物の系統との関連についても理解を深めさせる。分子進化の例なども取り上げる。
12			
1	3学年 特別 講習 期間	入試対策 各自の進路に応じた入試対策・問題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>3年必修選択科目である。学習に取り組む前提として、1年次履修した生物基礎の教科書をよく復習し覚えておく必要がある。教科書の分量も生物基礎と比べ大幅に増え、4単位であるので定期考査の範囲がかなりの量となる。普段の予習・復習が欠かせないことは言うまでもない。実験については目的を理解し、操作の意味を考えながら、自ら考察する力をつけるよう心掛ける。</p> <p>※選択者のクラス編成により、進度が変わる場合がある。</p>

教科名	理科	科目名	物理	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		実教出版 物理 新訂版			履修単位数	4
副教材等		数研出版 フォローアップドリル物理 一力と運動・熱と気体一 数研出版 フォローアップドリル物理 一波一 数研出版 フォローアップドリル物理 一電気と磁気 数研出版 フォローアップドリル物理 一原子-270+297 数研出版 フォトサイエンス 物理図録 (昨年度購入)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
(1) 科学的思考力を育成する。 (2) 大学で物理学を学ぶ基礎を育成する。	科学的な思考力が身についたかどうかを定期考査によって評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 24	力学	平面運動・運動量・円運動・単振動・万有引力
5			
6	期末 考査 まで 28	熱力学 波動	気体の分子運動・内部エネルギー・気体の状態変化 波の一般式・干渉・伝達・ドップラー効果・光の分散散乱偏光・レンズ・回折干渉
7			
9	中間 考査 まで 28	電磁気	電荷・電場・電位・コンデンサー・直流回路 電流と磁場・ローレンツ力・電磁誘導・交流
10			
11	期末 考査 まで 28	入試問題演習	生徒の志望大学の過去問演習によって物理学の総復習を行う。
12			
1	3学年 特別 講習	入試対策 各自の進路に応じた入試対策・問題演習	
2			
3			

<p>担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)</p> <p>この授業は、2単位の物理演習とセットで履修し、週6時間で高校の物理を一通り勉強します。そのうえで、入試問題演習を行い、大学入試の準備をします。どんな入試問題も授業で習った知識を使えば解けるようになっている(はずな)ので、授業で習った知識を「イメージ(物理学の概念)」「トレーニング(問題演習)」によってしっかり身につけるようにしてください。物理基礎と比較して難しくなりますが、みなさんの努力によって十分にカバーできると信じています。一緒にがんばりましょう。</p> <p>授業ではただ単に大学合格を目指すだけでなく、大学入学以後の長いスパン・広い視野も考えながら進める授業を目指していきます。</p>
--

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	履修クラス	3年必修選択	
				担当者		
使用教科書		パートナーシップでつくる未来「家庭基礎」(実教出版)			履修単位数	2
副教材等		最新生活ハンドブック (第一学習社)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
2年時の学習をふまえ、基礎的な知識と技術を総合的・体験的に習得させ、将来を見すえた家庭生活の向上を図る能力を育てる。自ら考え実践する事で、自立した大人としての基礎を築くことを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記入内容 実習の取り組み 欠席と遅刻 ・作品 実習中心の科目のため、欠席・提出物は評価の大きな部分となります。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	生活をつくる	衣生活をつくる ・エプロンの製作
5			
6	期末 考査 まで 14	生活をつくる	衣生活をつくる ・キッチン小物の製作 ・新生児の肌着製作
7			
9	中間 考査 まで 14	生活をつくる	衣生活をつくる、住生活をつくる ・フランス刺しゅう ・クロスステッチ ・染色 製作物をインテリアに活かす
10			
11	期末 考査 まで 14	生活をつくる	衣生活をつくる ・棒針編みのマフラー製作
12			
1	学年 末考 査ま で 16		
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
2年時の家庭基礎での内容をふまえ、「生活者」として主体的に実践する姿勢を育成する。様々な実習を通して、「ものを作る」事の楽しさや喜び、それを活用する所まで、この授業を通して体感してほしい。授業を通して考えた事や学んだ内容を応用できる、一人の「生活者」になれることを期待する。

教	家庭	科	フードデザイン	履修クラス	3年必修履修選択
---	----	---	---------	-------	----------

科名		目名		担当者	
使用教科書	新版フードデザイン COOKING & ARRANGEMENT (教育図書)			履修単位数	2
副教材等	最新生活ハンドブック (第一学習社)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
2年次の家庭基礎の知識を基に、食生活分野において自ら考え行動できる「生活者」となるよう、より深い知識と技術を身につけ、問題意識や探求心を持って食生活を営めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記入内容 授業(実習)の取り組み 期末考査 実習中心の科目なので欠席・提出物は評価の大きな部分となります。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	健康と食生活 栄養素・食品の特徴	現代の食生活の問題点を考察する。
5			栄養素の特徴、各食品の特徴を、深く学ぶ。
6	期末考査まで 14	調理と献立 調理実習	調理の基本技術を学ぶ。
7			和洋中の特徴と食事作法を学ぶ。 調理実習(内容は未定)
9	中間考査まで 14	調理と献立 調理実習	テーブルコーディネートを学ぶ。
10			テーブルセッティングやカラーコーディネート、小物製作を行う。 調理実習(内容は未定)
11	期末考査まで 14	調理実習 豊かな食生活をつくる	調理実習(内容は未定)
12			食文化について学ぶ。 現代の食生活について、1年間のまとめを行う。
1	学年末考査まで 16		各自の進路に応じた課題学習
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>昨年度の授業を土台にしながら、深い学びを目指します。</p> <p>自ら考え行動し、自立した大人になることにもつながる科目でもあります。</p> <p>今年度の調理実習については、ガイドラインの内容によっては実施できない場合もあります。</p>

教	芸術	科	音楽Ⅲ	履修クラス	3年必履修選択
---	----	---	-----	-------	---------

科名		目名		担当者	
使用教科書	Joy of Music (教育芸術社)			履修単位数	2
副教材等	特になし (必要に応じてプリントを配布)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てると共に、個性豊かな表現の能力を伸ばし、音楽的知識や理解を深めることを目標とする。進路希望実現のために、実技(鍵盤楽器)や楽典の専門的な技能を深く学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽・ソルフェージュなどの実技試験 ・筆記試験(必要に応じて) ・授業態度(欠席・遅刻を含む) 以上の観点から総合的に判断をして評価を行う。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○ソルフェージュ ・主要三和音の聴き分け ○音楽理論 ○キーボード 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜の基礎・聴音の導入 ・主要三和音の聴き分け ・音楽理論(音名・拍子・音程・音階) ・キーボードでの楽曲演奏
5			
6			
7	期末 考査 まで 14		
9	中間 考査 まで 14	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽理論 ○簡易伴奏付け ○弾き歌い ○キーボード 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論(調・和音とその種類・記号と標語) ・簡易伴奏付けとは? →簡易伴奏付けの理論・実技 ・キーボードでの楽曲演奏
10			
11			
12	期末 考査 まで 14		
1	3学年 特別 講習 期間	○1年間のまとめ	・1年間の総復習
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ・Ⅱの内容は全て習得しているものとして授業を進める。 ・専門的な内容や座学が増えるため、各自授業内容の定着に毎回努めること。 ・題材に対して毎時間真剣に全力で取り組むこと。各題材での積み重ねが大切です。 ・教室移動があるため、遅刻・忘れ物には特に注意すること。 ・全ての活動に積極的に参加し、音楽を楽しみ、専門的な技能を伸ばす意欲を持って取り組むこと。 ※取り上げる題材や内容は、進度や状況などにより追加・変更することもある。

教科 名	芸術	科 目 名	美術Ⅲ	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		「高校美術3」 日本文教出版			履修単位数	2
副教材等		課題に応じて購入予定。				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・美術系上級学校への進路対策と共に、その後の美術活動の基盤となる感性や表現能力を伸ばす。 ・卒業後の各人の生活の潤いとなる、美術の表現と鑑賞に必要な力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度と作品評価にて行います。

年 間 授 業 計 画					
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動		
4	中間 考査 まで 8	○デッサン ○平面構成 ○立体構成 ○絵画表現	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し、進路対策としての指導を行います。 静物デッサン (鉛筆 木炭) 自画像デッサン (鉛筆 木炭) 手のデッサン (鉛筆 木炭) 想定デッサン (鉛筆) 平面構成 立体構成 その他、各人に合わせた個人指導を行います。		
5					
6	期末 考査 まで 10				
7					
9	中間 考査 まで 10				
10					
11	期末 考査 まで 12				
12					
1	学期 末考 査ま で 4			○自主課題	<ul style="list-style-type: none"> ・受験を終えた生徒は、自主的に課題を決めて制作を行います。
2					
3					

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>基本的には美術系の大学・専門学校進学を目的とした授業内容ですが、建築や美容関係にも役立つ内容を含めて年間計画を練る予定です。受験の内容や時期がそれぞれ違うため、皆と面談をしながらの指導を考えています。また各人の主体的な課題への取り組みが必要にもなります。進路実現をはじめとして、それぞれの主体的な態度を求めます。</p>

教科名	芸術	科目名	音楽演習	履修クラス	3年必修選択	
				担当者		
使用教科書		なし（自作プリントを配布）			履修単位数	2
副教材等		特になし（必要に応じてプリントを配布）				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・受験科目あるいは進学後に必要なピアノ演奏の技術向上を図る。 ・演奏、鑑賞を通して様々な音楽作品に触れることで音楽の意義を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ演奏・歌唱・ソルフェージュなどの実技試験 ・筆記試験（必要に応じて） ・授業態度（欠席・遅刻を含む） <p>以上の観点から総合的に判断をして評価を行う。</p>

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエント ○鍵盤基礎練習 ○ソルフェージュ ・主要三和音の聴き分け ○音楽理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの構造の理解 ・演奏の基本姿勢、指のかたちの確認 ・楽譜の基礎知識 ・打鍵トレーニング ・片手演奏と両手演奏 ・音階練習 ・スラーとスタッカート奏法 ・左右異なるリズムで弾くトレーニング ・伴奏和音をおさえるトレーニング ・ペダルの踏みかえ ・コードネームの理解と伴奏付け課題
5			
6			
7	期末 考査 まで 14		
9			
10	中間 考査 まで 14	<ul style="list-style-type: none"> ○演奏表現の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論（調・和音とその種類・記号と標語） ・1学期の内容をふまえ、各自の進路希望に合わせて必要な楽曲練習を行う。 童謡の弾き語り 伴奏付け ピアノ作品 等
11			
12			
1	3学年 特別 講習 期間	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の総復習
2			
3			

担当者からのメッセージ（授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ・Ⅱの内容は全て習得しているものとして授業を進める。 ・専門的な内容や座学が増えるため、各自授業内容の定着に毎回努めること。 ・題材に対して毎時間真剣に全力で取り組むこと。各題材での積み重ねが大切です。 ・教室移動があるため、遅刻・忘れ物には特に注意すること。 ・全ての活動に積極的に参加し、音楽を楽しみ、専門的な技能を伸ばす意欲を持って取り組むこと。 <p>※取り上げる題材や内容は、進度や状況などにより追加・変更することもある。</p>			

教	芸術	科	美術演習	履修クラス	3年自由選択
---	----	---	------	-------	--------

科名		目名		担当者	
使用教科書	なし			履修単位数	2
副教材等	課題に応じて購入予定。				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・美術系上級学校への進路対策と共に、その後の美術活動の基盤となる感性や表現能力を伸ばす。 ・卒業後の各人の生活の潤いとなる、美術の表現と鑑賞に必要な力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度と作品評価にて行います。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 8	○素描 ○デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し、幅広い分野を行います。 人物クロッキー 体育祭入退場門の制作等
5			
6			
7	期末 考査 まで 10		
9	中間 考査 まで 10	○芸術表現	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの個性に合わせて計画を立て、絵画やデザイン、彫刻などの制作を行う。
10			
11			
12	期末 考査 まで 12		
1	学期 末考 査ま で 4	○芸術表現	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの個性に合わせて計画を立て、絵画やデザイン、彫刻などの制作を行う。
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>基本的には美術系の大学・専門学校進学を目的とした授業内容ですが、建築や美容関係にも役立つ内容を含めて年間計画を練る予定です。受験の内容や時期がそれぞれ違うため、皆と面談をしながらの指導を考えています。また各人の主体的な課題への取り組みが必要にもなります。進路実現をはじめとして、それぞれの主体的な態度を求めます。</p>

科名	国語	科 目 名	現代文演習	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		「大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編」数研出版 「新国語問題集 アシスト第21集」京都書房 「読解現代文必携 キーワードの卵」尚文出版				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
文章を客観的に読解できるようにするとともに、適切に理解する能力を高める。また大学入試に向けた実践的な能力の向上を目指す。幅広い演習問題に取り組み、センター試験・私大入試に対応できる能力を身につけることを目標とする。	課題の提出状況、授業への参加態度、授業内の小テスト及び定期考査等を勘案して、総合的に評価する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 12	論理・文学編 アシスト	「路地がまちの記憶をつなぐ」「著作権2.0」「ツバメたち」「紙/永遠の百合」 「金閣寺」「異文化理解」「幸福」
5			
6	期末 考査 まで 14	論理・文学編 アシスト	「うしろめたさの人類学」「生命の内と外」「杏っ子」「きみは、もう若くない」 「植物はなぜ動かないのか」「学びとは何か」「小説読本」
7			
9	中間 考査 まで 14	論理・文学編 アシスト	「住民空間の心身論」「リスク化される身体」「夏の影」「白鳥」 「時間の経済学」「動的平衡2」「季節のうつろい」「自由という牢獄」
10			
11	期末 考査 まで 16	論理・文学編 アシスト	「樹の鏡、草原の鏡」「キャッシュレス決済」「笥の話/変な音」「赤蛙」 「自由の思想史」「ウェブ社会のゆくえ」「人口知能は言語を獲得できるか」
12			
1	3学年 特別 講習 期間	論述・問題演習	各自の進路と課題による学習。
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
大学入試を見据えて、評論・小説の読解力を確立できるよう授業をおこないます。段階的にレベルの高い問題演習にも挑戦します。多くの問題演習に取り組んでいき、それぞれの実力を伸ばしてほしいと思います。

教科名	国語	科目名	古典演習	履修クラス	3年自由選択	
				担当者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		「古典文法ドリル 古文実戦編 改訂版」 「大学入学共通テスト 実践演習 古文・漢文編」				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
古典の基礎知識を確認し、多くの古典文学に触れます。さらに、大学受験に向けて、応用力・読解力をつけていきます。	課題の提出状況、授業への参加態度、定期テスト等を勘案して、総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	共通テスト	「源氏物語」 「十訓抄」 「史記」
5			
6	期末 考査 まで 14	共通テスト	「荘子」 「三国志」 「とはずがたり」
7			
9	中間 考査 まで 14	共通テスト	「鈴屋集」 「三国伝記」 「三体詩」
10			
11	期末 考査 まで 14	共通テスト	「潜研堂文集」 「孟子」 「夢溪筆談」
12			
1	3学年 特別 講習 期間	問題演習 各自の進路と課題による学習。	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
1・2年次に学んだことを生かして、多くの古典文学を読みます。大学受験に対応できる力をつけるため、古典文法や古典常識を中心に、問題演習に取り組みます。授業で学んだことは、各自がしっかりと復習し、大学受験本番までに自分の力を伸ばしていけるよう頑張ってください。コツコツと積み重ねることが、古典の学習では重要です。多くの知識を蓄えることができるよう、1回1回の授業を大切に、真剣に取り組んでほしいと思います。

教科名	数学	科目名	数学演習	履修クラス	3年自由選択	
				担当者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		ジュニア演習 数学I・A 受験編 (数研出版) 2022年入試ベストセレクションセンター試験数学重要問題集 (実教出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の希望進路に応じて、センター試験から大学個別入試問題までに対応できる学力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定式に沿って、単純に発想するのではなく、自由な発想で問題解決に取り組む者を高く評価する。 ● 出席状況、平常の学習態度を考慮して、個々の能力を適正に評価する。 ● 個々の問題にとらわれず、問題を通して基礎概念を深く理解しているかを観る。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 1 2	数と式 2次関数	<ul style="list-style-type: none"> ● 式の展開・因数分解 ● 根号を分数式の計算 ● 1次不等式 ● 2次関数のグラフ ● 2次関数の最大・最小 ● グラフと2次方程式 ● グラフと2次不等式
5			
6	期末 考査 まで 1 4	三角形の性質 円の性質	<ul style="list-style-type: none"> ● 三角形の性質 ● 円の性質 ● 空間図形 ● 三角比 ● 正弦定理・余弦定理 ● 図形の計量
7			
9	中間 考査 まで 1 4	集合と命題 場合の数 確率	<ul style="list-style-type: none"> ● 集合と命題 ● 場合の数 順列 ● 組合せ ● 確率
10			
11	期末 考査 まで 1 4	整数の性質 データの分析 入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ● 整数の性質 ● いろいろな方程式の整数解 ● データの分析 ● 大学入試対策問題演習
12			
1	3学年 特別 講習 期間		<ul style="list-style-type: none"> ● 大学入学共通テスト対策問題演習 ● 大学個別入試対策問題演習
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公式を当てはめるだけでなく、基礎概念を根本から理解する。 ・ 例題・問題演習など、根気強く丁寧に取り組む。 ・ 家庭学習：数学は毎日1時間勉強する。具体的には、問題集を1学期中に一周する。夏休み中に同様に二周目をこなす。そうすれば9月以降、入試問題演習に手応えを感じながら臨めるだろう。

教科 名	数学	科 目 名	数学総合演習	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		2020 大学入試 短期集中ゼミ 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B (実教出版) 2021 年入試ベストセレクション大学入試共通テスト数学重要問題集 (実教出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の希望進路に応じて、大学入試共通テストから大学個別入試問題までに対応できる学力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定式に沿って、単純に発想するのではなく、自由な発想で問題解決に取り組む者を高く評価する。 ● 出席状況、平常の学習態度を考慮して、個々の能力を適正に評価する。 ● 個々の問題にとらわれず、問題を通して基礎概念を深く理解しているかを観る。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	数と式	<ul style="list-style-type: none"> ● 因数分解、絶対値を含む方程式・不等式 ● 集合、必要条件・十分条件 ● 放物線の平行移動、2次関数の最大・最小、2次不等式 ● 放物線とx軸の共有点 ● 解と係数の関係、因数定理・二項定理 ● 点・直線・円
5		2次関数 複素数と方程式 図形と方程式	
6	期末 考査 まで 1 4	図形と方程式	<ul style="list-style-type: none"> ● 軌跡と領域 ● 角の二等分線と線分比、方べきの定理 ● チェバ・メネラウスの定理、接弦定理、空間図形 ● 正弦定理・余弦定理、円に内接する四角形、空間図形と三角比 ● 三角関数を含む不等式、三角関数のグラフ、三角関数の最大・最小
7		図形の性質 図形と計量 三角関数	
9	中間 考査 まで 1 4	指数関数・対数 関数	<ul style="list-style-type: none"> ● 指数関数、対数関数を含む不等式、対数関数の最大・最小 ● 関数の増減、最大・最小 ● 面積、面積の最大・最小 ● 順列・組合せ、確率の基本、反復試行の確率、条件付き確率
10		微分法・積分法 場合の数と確率	
11	期末 考査 まで 1 4	整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> ● 約数と倍数、方程式の整数解、整数の種々の問題 ● データの平均値、分散と標準偏差、データの相関関係 ● 大学入試共通テスト対策問題演習 ● 大学個別入試対策問題演習
12		データの分析 入試問題演習	
1	3 学年 特 別 講 習 期 間	ベクトル・数列の入試問題演習	
2		<ul style="list-style-type: none"> ● ベクトルと平面図形、空間のベクトル、内積と空間図形 ● 等差数列・等比数列、種々の数列、漸化式と数列 	
3		<ul style="list-style-type: none"> ● 大学入試共通テスト対策問題演習 ● 大学個別入試対策問題演習 	

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公式のたんなる当てはめではなく、基礎概念を根本から理解する。 ・ 例題・問題演習など、根気強く丁寧に取り組む。 ・ 家庭学習：数学は毎日1時間勉強する。具体的には、「チャート式数学Ⅰ・A、Ⅱ・B」「4プロセスⅠ・A、Ⅱ・B」等を1学期中に一周する。全問が望ましいが、基礎問題のみ、発展問題のみ、*印のみ、奇数番号のみ、3の倍数のみ等でもかまわない。1通り取り組むことが重要。夏休み中に同様に二周目をこなす。そうすれば9月以降、入試問題演習に手応えを感じながら臨めるだろう。

教科名	英語	科目名	英語演習	履修クラス	3年自由選択	
				担当者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		英検2級 語彙・イディオム問題 500・リスニング 120・長文読解 150 ライティング問題 (4冊とも旺文社)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
英検2級をハイスコアで合格するために、すべての分野の問題演習を豊富に行い、2次試験対策も充実させることで4技能をバランスよく伸ばします。特に差がつきやすいライティングも添削指導を8回行います。	定期考査だけでなく、授業での取り組みや英作文等の課題の提出、2次試験対策のパフォーマンステストも評価の対象とします。詳細は初回の授業で担当者より説明します。

年間授業計画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 12	語彙・イディオム Chapter1 Unit1/2/3 リスニング 第1部 Section1/2/3 長文読解 Chapter1 ライティング Chapter1	動詞・名詞・形容詞／副詞／その他 会話文の内容一致問題 語句空所補充問題 問題形式と過去問分析、ライティング演習
5			
6	期末 考査 まで 14	語彙・イディオム Chapter2 Unit1/2/3 リスニング 第2部 Section1/2/3 長文読解 Chapter2 ライティング Chapter2 Unit1/2/3	動詞中心型・名詞中心型・形容詞／副詞中心型・接続詞 パッセージの内容一致問題 内容一致問題 ライティング演習
7			
9	中間 考査 まで 14	語彙・イディオム Chapter3 Unit1/2/3/4/5 リスニング 模擬テスト 第1回 長文読解 Chapter3 ライティング Chapter2 Unit4/5	文型・時制・分詞構文・不定詞／動名詞・関係詞・助動詞 模擬テスト演習 模擬テスト演習 ライティング演習
10			
11	期末 考査 まで 14	語彙・イディオム 模擬テスト第1回~5回 リスニング 模擬テスト 第2回 ライティング Chapter3 Test1/2/3	模擬テスト演習 模擬テスト演習 ライティング演習
12			
1		英検2級過去問演習	予習をせず自分の実力で問題を解く

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
週に1回2時間の講座です。英検2級合格のために、とにかくたくさん問題を解いてもらいますが、問題を解くのは家庭学習がメインになります。そのため家庭学習で毎日一定数の問題を解いてきて授業に備えてもらうこととなります。事前の家庭学習も復習もかなりの量になりますが、英検2級合格のみならず大学入試や大学入学後も通用する英語力獲得のために一年間一緒にがんばりましょう！

教科名	地理歴史	科目名	世界史演習	履修クラス	3年自由選択	
				担当者		
使用教科書		詳説世界史 B (山川出版社)			履修単位数	2
副教材等		「最新世界史図説 タペストリー」 帝国書院				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
⑦ 世界史について深い理解と知識を得る。 ⑧ 大学受験に対応できる学力を身につける。 ⑨ 自ら学ぶ方法や力を身につける。	定期考査や小テストの得点を主体に、予習・復習に対する取り組み、テキスト及び授業ノートの提出状況、授業に取り組む姿勢などを加味して総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	近代ヨーロッパ世界の成立と主権国家体制の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンスと宗教改革 ・主権国家体制の形成 ・重商主義と啓蒙専制主義
5			<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18世紀のヨーロッパ文化 * 概説講義と問題演習を行う
6	期末考査まで 14	欧米近代国民国家の発展 アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン ・ウィーン体制の成立と崩壊
7			<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界の再編 ・19世紀欧米の文化 * 概説講義と問題演習を行う
9	中間考査まで 14	帝国主義とアジアの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア、西アジア、東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 ・帝国主義と世界分割そして列強対立 ・アジア諸国の改革と民族運動
10			<ul style="list-style-type: none"> * 概説講義と問題演習を行う
11	期末考査まで 14	二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国とアジア・アフリカ諸国の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略
12			<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦 * 概説講義と問題演習を行う
1	3学年特別講習期間		
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
世界史で大学入試等を受験することを前提として授業を行う。授業を集中して受け、必ず、毎回の予習・復習をすること。その際、教科書、資料集、問題集その他を十分に活用すること。授業の中で受験勉強の仕方等についてもアドバイスをを行う。1・2年次に既習の範囲が中心となるので、授業進度は早くなる。少しでも不明な点は質問し、未消化の範囲を作らないようにしてほしい。

教科 名	地理歴史	科 目 名	日本史演習	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		『詳説日本史』(山川出版社)			履修単位数	2
副教材等		『詳説 日本史ノート』(山川出版社)、『最新日本史図表集』(第一学習社)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
古代から近代までの一問一答で基礎力を養い、あわせて大学入試・大学入学共通テストに対応できる学力を身につけることが最大の目標である	一問一答の総合点及び以下の観点別評価にもとづいた総合的な評価を行う。 ①関心・意欲・態度、②思考・判断、 ③資料活用の技能・表現、④知識・理解

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	古代・中世史 演習	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治の国風文化 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長
5			
6	期末 考査 まで 1 4	近世史演習	第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺
7			
9	中間 考査 まで 1 4	近現代史演 習	第9章 近代国家の成立 第10章 近代日本とアジア 第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本
10			
11	期末 考査 まで 1 4	大学入試対 策演習	以下を素材に問題演習を重ねる。 ① 大学入試センター試験過去問 ② 私立大学入試過去問
12			
1	3 学年 特別 講習 期間	大学入試対策演習 以下を素材に問題演習を重ねる。 ① 大学入試センター試験過去問 ② 私立大学入試過去問	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
大学受験に対応できる学力を身につけることが最大の目標である。これまでの日本史や世界史の試験を直前の詰め込み学習で乗り越えてきた人は、根本的にやり方を変えなければならないことを宣言しておく。受験に対応できる学力は、一朝一夕には身につかないものと心得てほしい。地道な努力をこつこつ重ねる根気が、実力をつける唯一の方法であることを覚えておこう。

教科名	理科	科目名	化学演習	履修クラス	3年自由選択	
				担当者		
使用教科書		「高等学校 改訂 化学」第一学習社			履修単位数	2
副教材等		「セミナー 化学基礎+化学」第一学習社 「大学入試センター試験対策 チェック&演習 化学」数研出版 「フォトサイエンス化学図録 改訂版」数研出版				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
科学的な事象・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	有機化合物 無機化合物	芳香族化合物 有機化合物と人間生活 高分子化合物
5			
6	期末考査まで 14	無機化合物	非金属化合物 金属化合物
7			
9	中間考査まで 14	問題演習	物質の構成と化学結合 物質の状態と平衡 有機化合物
10			
11	期末考査まで 14	問題演習	無機化合物 総合問題演習
12			
1	3学年 特別 講習 期間	総合問題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
大学入試に向けて、既習事項の復習と問題演習を中心に行う。事前に指定した問題を自宅で予習してることが受講の必須条件である。また、今までの授業で扱うことができなかった実験も取り入れる予定である。

教科 名	理科	科 目 名	化学基礎演習	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		「高等学校 改訂 化学」第一学習社			履修単位数	2
副教材等		「セミナー 化学基礎+化学」東京書籍 「大学入試センター試験対策 チェック&演習 化学基礎」数研出版 「フォトサイエンス化学図録 改訂版」数研出版				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
化学的な事物・現象についての観察・実験などを通して、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的な自然観を育成する。	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	物質の構成 物質と化学 結合 の問題演習	物質の分離と精製、物質と元素、物質の三態と熱運動 原子の構造、電子配置と周期表、
5			
6	期末 考査 まで 1 4	物質の変化 の問題演習	イオン・イオンでできた物質 共有結合と分子、共有結合と分子からできた物質、電気陰性度と分子の極性、金属結合原子の相対質量と原子量・分子量・式量 物質と化学の基本法則・溶液の濃度と溶解度 化学変化と化学反応式の量的関係
7			
9	中間 考査 まで 1 4	物質の変化 の問題演習	酸と塩基、水素イオン濃度とpH・中和反応・塩・中和滴定と滴定曲線 酸化と還元・酸化剤と還元剤・金属のイオン化傾向と反応性 酸化還元反応の応用
10			
11	期末 考査 まで 1 4	総合問題 演習	センター試験・保健医療系大学入試問題等を用いて問題演習を行う。
12			
1	3学年 特別 講習 期間	総合問題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
大学入試に向けて、既習事項の復習と問題演習を中心に行う。事前に指定した問題を自宅で予習してることが受講の必須条件である。また、今までの授業で扱うことができなかった実験も取り入れる予定である。

教科名	理科	科目名	生物演習	履修クラス	3年自由選択	
				担当者		
使用教科書		「B i o L o g y 生物」東京書籍			履修単位数	2
副教材等		「セミナー生物基礎+生物」第一学習社 「スクエア生物図説」第一学習社				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
必修選択4単位「生物」で履修した内容を発展・深化させ、幅広い観点から生命現象を理解させる。大学入学共通テスト・生物系入試等多様な入試に対応できる学力を身につけさせる。	生物の様々な現象や法則性・多様性の発展的な内容について理解できているか否か、問題演習や実験を行う中で評価する。演習による理解度の確認とともに実験・観察への意欲・態度も観点に入れる。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	生命現象と 物質	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を構成する生体物質であるタンパク質を中心に生命現象との関連、及び代謝とエネルギーについて、問題演習を通じて理解させる。 遺伝子の発現調節を大腸菌の遺伝子組み換え実験を理解している前提で実験を行う。
5			
6	期末 考査 まで 14	遺伝子の働 き 生殖と発生	<ul style="list-style-type: none"> バイオテクノロジーについて問題演習を通じて理解させる。 生物の生殖と配偶子の形成および動物の発生のしくみについて問題演習を中心に理解させる。
7			
9	中間 考査 まで 14	生物の環境 応答 生態と環境	<ul style="list-style-type: none"> 動物の刺激の受容と反応および動物の行動については問題演習を通じて理解を深めさせる。 生態系の学習については図版や写真等を活用し、地球環境の保全の観点からも理解を深めさせるとともに野外観察なども取り入れる。
10			
11	期末 考査 まで 14	生物の進化 と系統	<ul style="list-style-type: none"> 進化のしくみと生物の系統との関連について問題演習を通じて理解を深めさせる。 分子進化の例などを具体例とともに理解させる。
12			
1	3学年 特別 講習 期間	入試対策 各自の進路に応じた入試対策・問題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
必修選択「生物」4単位で学習した生徒がさらに2単位分追加して選択する講座である。必修選択4単位で学習した内容をさらに深化・発展させ、学習していく。教科書の分量も多く、記述も難しい部分があるので徹底した自宅学習が前提になる。生物で受験を考えている生徒は教科書をよく理解した上で、併用の問題集を何度も繰り返して学習すること。 ※生物選択者のクラス編成により進度が変わる場合がある。

教科 名	生物	科 目 名	生物基礎演習	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		「B i o L o g y 生物基礎」・東京書籍			履修単位数	2
副教材等		「つかむ生物基礎」浜島書店 「スクエア生物図説」第一学習社				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
1年次履修した「生物基礎」を発展・深化させ、幅広い観点から問題演習を中心に生命現象を理解させる。大学入学共通テスト・医療系・看護系入試に対応できる学力を身につけさせる。	生物の様々な現象や法則性・多様性について理解できているか否か、入試過去問を中心に定期考査を行い、評価する。生物基礎の発展的な用語に対する理解についての評価が主となる。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 12	生物の特徴	生物の多様性と共通性について、様々な例を取り上げ、実験・観察を多く取り入れて、理解を深めさせる。
5			
6	期末 考査 まで 14	遺伝子とそ のはたらき	遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成 問題演習を数多く行うことで、遺伝子のはたらきを総合的に理解させる。
7			
9	中間 考査 まで 14	生物の体内 環境の維持	体内環境 体内環境の調節 免疫 生物体内で起きている多くの現象について総合的に理解させる。
10			
11	期末 考査 まで 14	生物の多様 性と生態系	植生、バイオーム、生態系 生物が環境の中でどのような役割を果たしているか理解させる。
12			
1	3学年 特別 講習 期間		入試対策 各自の進路に応じた入試対策・問題演習
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
大学入学共通テストや看護系など生物基礎での受験を目指す生徒が1年次に学習した内容を整理し、深め高めていく講座である。各単元の復習と大学入学共通テストレベルの演習問題を中心に学習していく。予習・復習を行い自分の苦手とする問題を繰り返し演習していくことで実力をつけることができる。教科書と図説は1年次に使用したものをを用いる。

教科 科 名	理科	科 目 名	物理演習	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		実教出版 物理 新訂版（「物理」と共通）			履修単位数	2
副教材等		「物理」と共通				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
大学入試に対応できる物理学の知識・技能を身につける。	平常授業により総合的に判断する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 1 2	「物理」に準ずる。	「物理」に準ずる。
5			
6	期末 考査 まで 1 4	「物理」に準ずる。	「物理」に準ずる。
7			
9	中間 考査 まで 1 4	「物理」に準ずる。	「物理」に準ずる。
10			
11	期末 考査 まで 1 4	「物理」に準ずる。	「物理」に準ずる。
12			
1	3 学年 特別 講習 期間	実践問題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
必修選択「物理」参照

教科名	保健体育	科目名	体育演習	履修クラス	3年自由選択	
				担当者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		「ステップアップ高校スポーツ」 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> 各種運動技能や知識の習得 自主的精神に満ちた、心身ともに健康な体力づくり 生涯体育の実践者の育成 	①準備・片付けを含め、いかに積極的・自主的に取り組んでいるか②技能の習熟度③出欠席、以上の3点を踏まえ総合的に評価する。なお、届け出のある欠席でも、欠時数が標準授業時数の1/5を越えた場合には、原則として単位の修得は認めない。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	基本的運動能力の向上	50m走、シャトルラン、上体起こし、反復横跳び、垂直とび、立ち幅跳び、ハンドボール投げ
5		サッカー バスケットボール	各種目とも生徒同士で内容を検討・決定し、活動計画を立案する。 サッカー：チーム練習からゲームの実施 バスケットボール：チーム練習からゲームの実施
6			
9	中間 考査 まで 14	基本的運動能力の向上	50m走、シャトルラン、上体起こし、反復横跳び、垂直とび、立ち幅跳び、ハンドボール投げ
10		バレーボール バドミントン ソフトボール	各種目とも生徒同士で内容を検討・決定し、活動計画を立案する。 バレーボール：チーム練習からゲームの実施 バドミントン：シングルス及びダブルスのゲームの実施 ソフトボール：個人練習・チーム練習からゲームの実施
11			
12	14	バレーボール バドミントン 卓球	各種目とも生徒同士で内容を検討・決定し、活動計画を立案する。 バスケットボール：チーム練習からゲームの実施 バレーボール：チーム練習からゲームの実施 バドミントン：シングルス及びダブルスのゲームの実施 卓球：シングルス及びダブルスのゲームの実施
1	3学年 特別 講習 期間	各自の進路に応じた課題学習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> 活動に際しては、互いを尊重し合う気持ちを持つとともに、ルール・マナーの尊重はもちろんのこと健康状態に留意し、怪我など発生しないよう注意する。 体育着については、学校指定のものはないので、一般的に運動着として適した伸縮性のあるものを着用する。装身具は一切身に付けない。 長期見学の場合は診断書等の書類を提出した上で、見学ノートを作成し毎時提出する。

教科 名	芸術	科 目 名	素描とデザイン	履修クラス	3年自由選択	
				担 当 者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		課題に応じて購入予定。				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・美術系上級学校への進路対策と共に、その後の美術活動の基盤となる感性や表現能力を伸ばす。 ・卒業後の各人の生活の潤いとなる、美術の表現と鑑賞に必要な力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度と作品評価にて行います。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 8	○素描 ○デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し、幅広い分野を行います。 ・人物クロッキー ・静物モチーフ 素描 ・文化祭ポスター等
5			
6			
7	期末 考査 まで 10		
9	中間 考査 まで 10	○素描 ○デザイン ○芸術表現	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの個性に合わせ、絵画やデザイン、彫刻などの制作を行う。 ・1学期クロッキーや素描を生かした表現に試みる。
10			
11			
12	期末 考査 まで 12		
1	学期 末考 査ま で 4	○素描 ○デザイン ○芸術表現	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの個性に合わせ、絵画やデザイン、彫刻などの制作を行う。
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
美術系や建築、美容関係にも役立つ内容を含めて年間計画を練る予定です。受験課題を行うこともあります。授業内容については、皆と面談をして考えてきます。また各人の主体的な課題への取り組みが必要にもなります。